

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港塩口24
電話2-9772

道徳教育の推進

自制心や規範意識の希薄化、自分に自信がない、学習や将来の生活に対する不安など、現代の子供には、様々な課題が見られます。このような現状から、子供たちが、他者、社会、自然などの環境と豊かなかかわりの中で生きるといふ実感や達成感を深めるためにも、学校では集団生活の場としての機能を生かし、道徳教育の一層の充実を図ることが重要です。道徳教育を進めるにあたり、各校で特に次の2点について点検し、取り組むことが必要です。

① 全体計画の作成

目指す児童像を明確にし、重点目標を設定します。各教科等、それぞれの特質に応じ

て適切な指導をし、学校教育全体で取り組みます。

② 年間指導計画の作成

道徳の時間では、教育活動を明確にし、道徳的価値全体にわたって計画的、発展的に指導します。道徳の内容のすべてについて、確実に指導することができると見通しのある計画を作成し、年間指導計画に基づく指導が大切です。

文部科学省から配布された「私たちの道徳」は道徳の時間で活用しやすい内容や構成です。また、島根県教育委員会制作の道徳教育郷土資料「しまねの道徳」は、郷土の特色を生かし、事実としての迫力を大事にした資料です。

各校で、校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心として体制を整えられ、心の教育が充実することを期待しています。



都万中学校校区の取組

都万中学校校区では、平成26年度「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」に取り組んでいます。この事業は、保・小・中の連携のもと、道徳の時間の質的向上や地域に根ざした創意工夫ある道徳教育の推進を目的としています。11月には、合同授業研究会が実施されました。授業後の研究協議では、児童の授業に対する姿勢や発言、発問のあり方など活発な意見交換があり、実り多い研修となりました。今後も、この事業における成果が期待されます。

(文責 宇野)



特別支援教育の視点から

11月、隠岐広域特別支援教育研修会を、京都府教育センター後野文雄先生をお招きし開催しました。演題は「教育のユニバーサルデザイン」すべての子供をささえるための具体的な取組「特別支援教育の視点から」でした。このタイトルから、何か気づいたことはありますか？

これまで特別支援教育では「特別な支援を要する子供への支援」というところに重点がおかれ取組が進められてきました。しかし近年、演題のタイトルの中にあるように「すべての子供を支える」、こういうスタンスで特別支援教育の視点をもった取組が重要視されてきています。

1、2学期と学校訪問を行わせて頂きました。先生方か

らは特別支援学級における支援のあり方についてはもちろん、通常の学級における支援のあり方についてもたくさん話題をあげていただきました。隠岐においても「すべての子供を支えるために」という視点で、教育のユニバーサルデザインの考え方が浸透してきていることを嬉しく感じました。

教育のユニバーサルデザインについては、最近UDと略して標記されるほど、全国的に大きな流れがあります。ネットや書籍においてもUDをテーマにした情報がたくさんあります。すべての子供を、すべての先生がUDの視点を大切にして支えていく。そのような取組が隠岐の中でますます活発になっていくことを願っています。皆で一緒に考えていきましょう。

(文責 加多)